HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「ツリーハウス・ワークショップ in 北海道大学」による産学連携ものづくり 教育の実践
Author(s)	森, 傑
Description	第59回工業教育研究講演会、2011年9月8日(木)～10日(土)、北海道大学大学院工学研究院、札幌市
Citation	第59回工業教育研究講演会講演論文集, 2011, 554-555
Issue Date	2011-09-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50014
Type	conference paper
File Information	JSEE,2011,554-555.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「ツリーハウス・ワークショップ in 北海道大学」による産学連携ものづくり教育の実践

Practice on Design Education by Industry-Academia Collaboration through the Tree House Workshop in Hokkaido University

森　　傑※1
Suguru MORI

キーワード：ツリーハウス，ワークショップ，建築教育，産学連携
Keywords: Tree House, Workshop, Education in Architecture, Industry-Academia Collaboration

1. はじめに

本ワークショップは、北海道大学キャンパス内でのツリーハウスの計画・設計および製作を通じて、建築分野の学生および若手技術者の自然環境に対する認識を深め、地球環境時代のものづくりのあり方の本質について、体験的に学ぶことを目的とした。

今日、主として環境負荷・環境汚染の問題から、建築専門家および建設業の責任が問われるとともに、今後の改善へ向けての役割が期待されている。大学においては、当然ながらそれらの課題について教育に取り組んではいるが、座学による講義と仮想プロジェクトによる演習を中心とした方法が通例であり、知識的に建築と自然の関係を理解できてはいるものの、建築という行為が実際に自然へどのような影響をもたらすのか、そのリアリティについては必ずしも十分な教育を行えているとはいえない。

そこで、宿命的に自然へ何らかの影響を与えざるを得ない建築の意味を問うような学習の機会として、自らの手を動かして自然と対峙しながらものづくりを実感できるツリーハウスに注目した。ツリーハウスは、農林水産省により、木や木材を使った製品に親しむことを通じて森林の維持や国産材の活用などへの理解を深める「木育」としても推進されており、既に多くの国内の大学や小学校・幼稚園などの教育施設において製作されている。

本ワークショップは、豊かなものづくり観と高い専門力をもった次代を担う若手技術者を、産学が共同して育成しようという意欲的な取り組みであり、建築という人工物が地球環境においてどのような意味を持つのか、ものづくりの本質をより深く考えようという姿勢と試みは、サステイナブル時代における大学の教育のあり方を考える上で有益な実践であると考えた。

※1 北海道大学大学院工学研究院
建築都市空間デザイン部門

2. ワークショップの成果

2010 年 11 月 6 日、北大イチョウ並木の黄葉が美しい週末、落ち葉を身にまとったツリーハウスが工学部前に姿を現した。具体的な計画・設計のプロセスでは、北大サステイナビリティウィーク期間中の企画であることも意識して、3R（Reduce, Reuse, Recycle）を追求した。また意匠的にも、従来のツリーハウスのイメージを覆す、紅葉をテーマとした斬新なデザインに挑戦した。

諸事情により、残念ながら完成状態の姿を公開できたのは僅か 1 日であったが、短い期間にもかかわらず約 1,000 人の学外の方が見学に訪れた。本ワークショップの関係者一同、その反響の大きさに驚いたとともに、建築業が複雑になり社会からの反響が感じづらくなりつつある中、それを直接的なコミュニケーションを通して経験できたことも非常に有意義であった。

本ワークショップでは、ある種のポエティックな対象ではなく、専門家としての自然への責任の認識を深める教育機会としてツリーハウスに注目したが、同時に、建築本来の楽しさや美しさといった魅力を広く社会へ発信できたことも大きな成果の一つとして考えている。

さらに、本ワークショップの波及として、2011 年 9 月に札幌芸術の森で開催される「JUNIOR CHALLENGE JAM 2011」の企画の一つとして、今回の産学連携チームが小学生を対象としたツリーハウス・ワークショップを実施することになった。二日間で約 2 万人の動員が見込まれる産官学参画によるアート・イベントである。大学内にとどまらず、一般の人々も対象とした工学系のもののづくり教育の機会を、地域での大きなイベントの一環として得たことの意義は大きく、次回のワークショップ通じて、さらに充実した教育プログラムの開発へと繋げていきたい。

図　ツリーハウスの検討過程の様子